北朝鮮の核保有数は最低でも百十二個

米シンクタンクの二〇一〇年予測

北朝鮮はすでに核兵器を持っているのか。持っているとすればいくつぐらいか。将来の生産能力は一。こうした疑問に世界の関心が集まっているが、正確な答はまだ出ていない。ところが最近、アメリカの権威あるシンクタンク、カーネギー国際平和財団の「核不拡散研究プロジェクト」が、〝アメリカ政府の最も信頼できる情報〟に基づく推計として、「二〇一〇年までの北朝鮮の核兵器生産は最多で二百五十三個、最少でも百十二個になる」との予想を発表した。

この推計は三つの条件に分けて行われている。第一は最も条件がよい場合で、二〇〇三年以前の保有数はプルトニューム型二個のみ、二〇〇三年にプルトニューム型六個、二〇〇四年から六年まで毎年同型一個ずつを生産。二〇〇七年にはプルトニューム型の生産能力が一挙に増大して二〇一〇年まで毎年五十六個ずつ生産する。高濃縮ウラン型は二〇〇五年に生産が開始され、以後二〇一〇年まで年間三個ずつを生産する。こうして二〇一〇年時点での累計保有数はプルトニューム型二百三十五個、高濃縮ウラン型十八個の計二百五十三個となる。

第二は中間的条件下（新規原子炉の建設は早期に完了するが、高濃縮ウランの生産は予定より遅れる）での推計で、二〇〇三年以前の保有数はプルトニューム型一個だけ。二〇〇三年には同型が六個。プルトニューム型では、二〇〇四、二〇〇五年の三年間は年間一個、二〇〇八年から二〇一〇年までは年間二十九個と激増する。高濃縮ウラン型は二〇〇六年から二〇一〇年まで年間三個ずつ生産される。こうして二〇一〇年までの累計はプルトニューム型九十七個、高濃縮ウラン型十五個の計百十二個である。

第三は最も悪条件の場合の推計で、二〇〇三年以前はゼロ、二〇〇三年中にプルトニューム型六個、以後プルトニューム型は二〇〇四年から二〇〇七年までの四年間が各一個ずつ、二〇〇八年から一挙に増えて二〇一〇年まで年間二十九個ずつ、高濃縮ウラン型は二〇〇六年から二〇一〇年まで毎年三個が加わる。二〇一〇年までの累計はプルトニューム型九十七個、高濃縮ウラン型が十五個、計百十二個となる。

この推計の信憑性が高いとすれば、北朝鮮は七年後にはインドやパキスタン並みに三桁の核兵器をもつ押しも押されぬ核クラブの一員になる。そのあかつきには、北東アジアの政治・安全保障の条件は一変するだろう。

（アジア研究所長　友田　錫）

収が報じられている。

医療費負担が重くなれば、財政収入の増加を目的とした郷村政府による農地の強制収用、転販行為がさらに増加する可能性も高い。

新制度では、運営単位を郷村から県レベルに引上げているが、県財政も五割近くが赤字である。そのうえ、税費改革の過程で従来郷村政府が負担してきた義務教育経費のすべてが県の財政負担に切り換えられたばかりである。各行政レベルでの医療費負担割合の調整は今後の大きな課題である。また財政負担の軽減という視点から長期的には商業保険の活用を考慮すべきであろう。

次の問題は医療水準である。衛生院、衛生室の医師の多くは三〇年も前に短期間の研修を受けた「赤脚医生」かその子供たちである。二〇〇四年一月から医師の資格取得と研修が条例で義務づけられるが、技術水準の高い医師は県レベル以上の病院に集中してしまうという現状を改めるには、衛生院に近代的な医療設備を完備するという中央政府の配慮が必要であろう。

農村合作医療については、いまだに主管官庁が明確でないことも問題である。因みに二〇〇三年一月の「新型農村合作医療制度」に関する通達も、衛生部、財政部、農業部の連名である。広東省では、農村医療の主管が二〇〇〇年二月に省衛生庁から農業庁に改められ、二〇〇三年六月に再び衛生庁に戻されるなどの変遷がみられた。中央政府から郷村レベルに至るまで、行政の一本化が急務であろう。

（こばやしひろなお・アジア研究所教授）